

平成18年度 第1回 経営協議会議事要録

日 時 平成18年5月16日(火)午後1時30分から午後3時25分

議事に先立ち、学長から本協議会学外委員の就任へのお礼があった後、各委員及び事務職員の自己紹介を行った。

【審議事項】

- 1 経営協議会開催予定及び主な審議事項について (資料 1)
 - (1) 総務企画課長から、参考資料集に基づき、国立大学法人における経営協議会の位置付け及び役割等について説明があった後、資料に基づき、開催時期及び審議内容について説明があった。
 - (2) 審議した結果、原案を承認した。

【報告事項】

- 1 平成18年度科学研究費補助金の交付内定の状況について (資料 2)

総務部長から、資料に基づき報告があった。

また、西村理事から、採択率アップについては、1年半前から各部局の協力の下、各研究科所属の助手や事務局で事前に申請書類のチェックを行ったことも要因の一つではないかとの紹介があった。
- 2 平成18年度学部入学者選抜実施結果について (資料 3)

学務部長から、資料に基づき、各学部とも入学定員を上回る入学者数であった旨の報告があった。

また、辻委員から、法学部の入学定員が他の学部比べてなぜ少ないのかとの質問があり、盛委員から、ロースクール設置に伴う措置である旨の説明があった。
- 3 平成18年度大学院入学試験実施結果について (資料 4)

学務部長から、資料に基づき、修士課程、博士後期課程及び専門職学位課程の入学者数について報告があった。

また、村上委員から、昨年度の状況(学部の入試も含めて)を教えてほしい旨の質問があり、学務部長から昨年度の状況について説明があった。

【その他】

- 1 大学運営についての意見交換
学外委員から出された意見
 - 1 入学試験制度(前期日程・後期日程・大学院)に関すること。

他大学では、後期日程廃止を検討している事例もあるが。
後期日程をもっと戦略的に位置付けてはどうか。
本学に期待するのは、深い教養を培い、また自分で考えられる力を持った人材の育成であり、それは入学試験のあり方にも関わっているのではない

か。

今後は学部の入学から博士後期課程までの出口（卒業時における専門人としての獲得能力）の見える一貫した教育が大学に期待されている。それにより大学が魅力あるものとなり、入口（入学時）においても、豊かな潜在能力を持つ学生が受験するようになるのではないか。

大学院入試において多数の辞退者がいるが、入試のあり方も含め対応策などを検討しているか。

出された意見について、学長及び田崎理事から本学の対応及び検討状況等について説明があり、今後学内の関係委員会等で検討していくこととした。

2 経営協議会の役割について

法人化に伴い、効率化係数5%が関わってくる。本学もそれに伴い、外部資金をどのように獲得していくか、獲得しやすい環境を作っていくか、資金の効率的な活用を行う仕組み（研究支援組織）を検討していくことが必要ではないか。

内部の効率化を積極的に進める必要がある。

学内の予算配分をもっと戦略的に行っていないといけないのではないか。

出された意見について、菅澤理事及び事務局長から本学の状況について説明があった。

議事終了後、希望者に対してキャンパス案内を実施した。